

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370327

研究課題名(和文) ハワイにおける初期演劇文化とアメリカ演劇史再考

研究課題名(英文) American and Japanese Theater Culture at the Turn-of-the-century Hawai'i and the Reconsideration of American Theater History

研究代表者

常山 菜穂子 (TSUNEYAMA, Nahoko)

慶應義塾大学・法学部(日吉)・教授

研究者番号：00327686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカを国あるいは大陸という枠組みではなく海に囲まれた「島」として捉える惑星思想的視点に立ち、19世紀後半から20世紀初頭のハワイにおけるアメリカ演劇および日本人移民による演劇文化を再現・分析した上で、アメリカ大陸本土を中心とする従来の演劇史を再考することを目標とした。

成果として、(a)先行する日米の演劇研究・移民研究では軽視されたハワイ初期演劇文化の諸相を明るみにした。(b)従来の演劇史はマイノリティの活動をすくい上げた一方で二分法的歴史観が色濃く残るが、本研究が明らかにしたハワイ初期アメリカ演劇文化はこの二分法から逸脱した存在であり、演劇史再考を促す第3の視点を提案できた。

研究成果の概要(英文)：This study took a planetary perspective that perceived America as an "island" surrounded by ocean rather than understanding it in a framework of a country or a continent. Through reproduction and analysis of American theater and theater culture of Japanese immigrants in Hawai'i from the late 19th century to the early 20th century, this study aimed to reconsider the conventional theater history that is centered upon the mainland US.

The outcomes of this study were as follows. (a) Light was shone on various aspects of Hawai'i's early theater culture that had been skimmed over by prior Japanese and American theatrical and immigrant research. (b) While the conventional theater history includes the activities of minorities, a thick tainting of a dichotomous viewpoint has remained. However, the early American theater culture in Hawaii that this study illuminates exists outside such dichotomy, enabling the proposal of a third viewpoint urging reconsideration of theater history.

研究分野：アメリカ演劇文化

キーワード：アメリカ演劇 アメリカ演劇史 ハワイ演劇 日本人移民 19世紀 20世紀 西漸運動 太平洋横断的視点

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、グローバリゼーションの現象と概念が意識的 / 無意識的に依拠してきた「世界の中心としてのアメリカ」の地位が揺らぐと、アメリカ研究にアメリカを脱中心化する一つの動きが生まれた。アメリカ一國主義を内包する「グローバル(地球規模の)」という概念を避けて、異質なものと不可視化されてきたものをも包括する「惑星」の視点からアメリカ文学・文化を再読しようとする「惑星思考」(planetarity, planet thought)である。Gayatri C. Spivakは*Death of a Discipline* (2003)で「惑星」という言葉を用いて、国民国家や国境、地域、民族といった「境界を横断しようとする」ような、比較文学と地域研究が連動した新しい比較文学研究を提唱し、Wai Chee Dimockは、アメリカ文学を「他の地理、言語、文化に入り込んでいくような、終わりがなく増殖し続ける、交差した通路の集合体」(*Through Other Continents: American Literature Across Deep Time*, 2006)として捉え直した。

こうした惑星思考に連なる研究では、アメリカを海に囲まれ、絶えず他者との交渉にさらされる存在と見なす感覚が目を惹く。たとえば、Gretchen Murphyは「大陸」という区分を無化して、「半球」という地理的視座からアメリカを世界の中に位置づけた上で、アメリカの西半球進出を促したモンロー主義と同時代の文学やマスコミといった文化装置との共振関係を明らかにする(*Hemispheric Imaginings: The Monroe Doctrine and Narratives of U.S. Empire*, 2005)。また、Gary Y. Okihiroの*Island World: A History of Hawai'i and the United States* (2008)は「大陸」と「島」の序列が融解するような世界像を提示する。この「島世界 island world」観によればアメリカ本土の中心性は失せ、今まで見えなかったハワイの影響からアメリカ史を問い直す史観が可能になるのだった。

本研究では、以上の新思潮をアメリカ演劇・演劇史研究に援用し、アメリカ演劇史を書き直したい。今から15年前、マルチカルチュラルな時代に即した演劇史が求められ、決定版とされる*The Cambridge History of American Theatre* 全3巻(1998-2000)と*The History of North American Theater* (1998)が出版された。研究代表者は一貫して、アメリカ演劇史を研究してきた。前回、科学研究費補助金(若手研究(B)、2002~03年度)を取得した際には、アメリカにおけるシェイクスピア受容を解明して、アメリカ演劇史上にシェイクスピアを位置づける試みを行い、その成果を単著『アメリカン・シェイクスピア --- 初期アメリカ演劇の文化史』(国書刊行会、2003)として出版した。前述した二冊の演劇史もこの拙著も、そして以後に発表したいいくつかの拙論も、白人男性

作家による近代劇と戯曲テキストだけを偏重した旧来の史観を大きく改める成果があった。一方で、ブロードウェイの中心的位置づけを保ったため、主流演劇とそれに対抗する第二勢力という二分法的な視点と記述法を持つこととなった。また、アメリカ演劇を北米大陸の外にある演劇的事象と関連づける姿勢も欠けていた。そこで新たに、アメリカ演劇・演劇史をより相対的な視点から再検討する史観が必要だと考えるに至った。

2. 研究の目的

上記の学術的背景をもとに、具体的には、19世紀後半から20世紀初頭のハワイで展開したアメリカ演劇および日本人による演劇を再現・分析すると共に、双方の相互交渉も考察する。ハワイは「太平洋の島」という地理的条特性に由来する複雑な歴史的経緯と人口構成、文化基盤を持つ。こうした条件が正に備わりつつあった上記時期のハワイはアメリカの演劇的想像力に働きかけて、NYを中心とする演劇とは全く異質の演劇文化を創り上げていた。しかし、この演劇文化は演劇史では言及されず、不可視なままである。

本研究では特に、(1) ハワイに立ち寄って公演を行いながら、アメリカからアジア・オセアニアへ、また逆方向に日本からアメリカ大陸へ渡った日米の巡業活動と、ハワイを挟んで生れた日米間の興行ネットワーク、(2) ハワイの日米在住者による演劇活動の2点に絞り、役者・劇団、演目、興行、劇場、観客、料金、広告、劇評といった観点から当時の演劇状況を再現する。さらに、そうした活動の政治経済的・文化的意義を分析し、アメリカ演劇史上に位置づける。対象時期は、1849年(ホノルル初の劇場が開場)から1920年代前半(映画が台頭した時代であり、かつ日本人移民の第一世代)までとする。

3. 研究の方法

本研究は、本質的に一過性の演劇活動を対象とし、その上、19世紀後半から20世紀初頭のハワイにおけるアメリカ演劇と日本人移民による演劇活動は今まで注目されずにきたため先行研究は稀少である。そのため、当時の演劇状況を150余年前にさかのぼって可能な限り再現しなければならない。よって、アメリカ演劇・演劇史や日本演劇・演劇史、大衆演劇、海外巡業等に関する演劇研究の基本的文献、また日本人移民、ハワイ史、アメリカ史に関する歴史分野の文献を収集・精査した。また、上演作品の台本はほとんど残っていないものの、同時代と後世のハワイおよび日米で発行された両国語による新聞、年鑑、歴史書、旅行記、また小説や詩、俳句短歌といった演劇以外の文学作品の分析が有用な手がかりとなった。さらに、演劇活動の再現にはとりわけ視覚による確認が有効である

ため、図版、写真、ポスター、チラシ、広告、地図を援用した。

4. 研究成果

本研究は、すでに決定版とされている演劇史の問題点を明らかにした上で補完し、書き直そうとする点で挑戦的であった。また、太平洋の視点からアメリカ演劇と演劇史を考察する点も独創的である。また、今まで、アメリカ研究全般においてヨーロッパとの交流が重視されており、前出の拙著(2003)も大西洋横断的な論点に立っていた。しかし、近年は、長年に渡る「太平洋関係によって促進された多層的な枠組み」がアメリカ再考の論点として強く注目されており(Ian Tyrrell *Transnational Nation: United States History in Global Perspective since 1789*, 2007)、本研究もそうした視座を採用するものであった。

本研究の成果として、以下3点が達成された。

(1) 資料のデータベース化

本研究が対象とする19世紀末から20世紀初頭にかけての初期ハワイ演劇文化は今まで注目されずに来たため、研究の土台となる資料のデータベース化が不可欠であった。そのため、ハワイ大学マノア校のハミルトン図書館ハワイ太平洋コレクション、日本研究コレクション、地図コレクションにて、さらにハワイ州立図書館、州資料館、ピシヨップ博物館において資料収集を行い、整理した。とりわけ、ハワイの英字新聞 *Pacific Commercial Advertiser* 紙と日本人移民による初の本格的な日本語新聞『やまと新聞』(1895年創刊)を中心に、日英両語による新聞から演劇関連の記事と広告を収集・データベース化した。

(2) ハワイにおける初期演劇文化の解明

ハワイの演劇に関する研究では、ハワイ固有の歴史と民族をテーマとする「ローカル劇」が生じるとされる20世紀半ば以降が主な対象で、それ以前の初期演劇に関する先行研究は稀少である。その上、当該時期のハワイにおける日本人の演劇活動については、日米の演劇研究・演劇史はもとより日系移民研究でも触れられてこなかった。本研究の遂行は、こうした先行研究の盲点に光を当てて補完しうるものであった。

(3) アメリカ演劇史に第3の視点を提案

従来の演劇史はマイノリティの演劇をすくい上げる成果があったが、そのために、図らずも「ブロードウェイ、商業主義、白人」対「非ブロードウェイ、非営利、エスニック」などといった二分法が演劇史の記述を覆うこととなった。しかし、本研究で明らかになる、ハワイにおける初期演劇文化は「非ブロードウェイ」だが「商業主義」である上に人

種的には混淆状態にあり、既存の二分法を越えている。この、いわば「第3の存在」を解明することによって、アメリカ演劇史の二分法的記述を問い直す新視点を提供した。今後、アメリカ演劇史のさらなる拡充が期待できる。

各論としては、以下の2点を中心に考察し成果を得た。

(1) ハワイにおけるアメリカ演劇の進出

19世紀末にNYを中心とする全米興行ネットワークが完成したが、ハワイはこのシステムからはずれ、代わりにストック劇団が巡業に来ていた。こうした巡業事情の背景にある「太平洋の島」特有の条件を明らかにした。また、ハワイでは19世紀からアマチュアの役者・劇団が活躍し20世紀初頭の小劇場運動を導いた。アマチュア需要の要因を地理的特性から考え、「ローカル劇」の起源を問い直した。

本研究では、アメリカ本土からハワイへ来たストック劇団の活動と意義に集中したが、多くの役者・劇団はハワイを中継してオセアニア、アジア、さらにはヨーロッパへと巡業しており、このような世界一周巡業ネットワーク構築の経緯と意義を帝国主義的視点から探ることが今後の課題である。

(2) 日本人芝居の解明

1899年と1908年にホノルルに建設された二つの日本人専用劇場の建設経緯を追うと共に、劇場空間に投影された日米両国の帝国主義から専用劇場建設の意義を明らかにした。さらに、当該時期および21世紀に制作・上演された、日本人移民の労働闘争を描く3作品を比較分析することにより、日本人移民の抑圧者としての性質を移住者植民地主義(settler colonialism)の論点から浮き彫りにすると同時に、「ローカル劇」、ひいては広く「アジア系アメリカ演劇」という演劇史上の定義自体を問い直した。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計2件)

常山菜穂子“Strata of Empires: First Japanese Theaters in Hawaii, 1899-1908”, International Federation for Theatre Research (FIRT / IFTR) Annual Conference, 2014年

常山菜穂子「ハワイ・ローカル劇の地理的起源」、日本アメリカ文学会第53回全国大会、2014年

〔図書〕(計2件)

常山菜穂子 他、金星堂、『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』、2018、386

常山菜穂子 他、彩流社、『モンロー・ド

クトリンの半球分割 トランスナショナル時代の地政学』、2016、303

〔その他〕

常山菜穂子、「アメリカ演劇(史)の<明白なる運命>」、科学研究費・基礎研究(B)「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星的想像力」2014年度第3回研究会、2014年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

常山 菜穂子 (TSUNEYAMA, Nahoko)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：00327686